

学校図書館支援センター通信

NO.154

令和3年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

市川市立菅野小学校 「子供の読書活動優秀実践校 文部科学大臣表彰受賞」

令和2年度子供の読書活動優秀実践校として、市川市立菅野小学校が選ばれ、「文部科学大臣表彰」が贈られました。菅野小学校は、「豊かな読書活動」「輝く学習活動」を学校図書館の重点目標とし、「いつでも・だれでも・自由に使える」学校図書館づくりを行っています。そのために、学校図書館のレイアウトや配架の工夫、学級文庫を用意して教室の読書環境を整備するなど、子供たちにとって読書がより身近なものになるような取組を行っています。菅野小学校が行ってきた主な取組についてご紹介します。

《週に1度の朝読書の日》

毎週月曜日を朝読書の日として、各クラスで自由読書や読み聞かせを行っています。保護者による読み聞かせや校長先生の読み聞かせも行っています。読み聞かせは、読書の幅を広げることに役立っており、特に校長先生による読み聞かせは効果が大きいそうです。また、昨年度の休校期間中には、学校司書による読み聞かせ動画や課題図書を紹介動画、図書館オリエンテーション動画などを、児童向けYouTubeで限定配信をしました。



令和2年度校長先生による読み聞かせ動画を活用して行いました。

《家庭読書の推進をめざして ～家読(うちどく)の取組～》

令和元年度より、夏休み前と11月の読書月間、冬休み前に「家読」のプリントを配付して、親子読書を行うように呼びかけています。昨年度の休校期間中には、読んだ本を記録する「家読カード」は、学校のホームページに掲載して、いつでもダウンロードできるようにしました。今年度は、「子ども読書の日」に合わせて、「家読」のプリント配付を行い、新しい学年のスタート時期と合わせて親子で読書を取り組める環境を整えました。

※「家読」とは、家族で同じ本を読み、同じ時間帯に家族で読書を楽しむ、親子で読み聞かせをするなど家族で読書を楽しむ活動です。

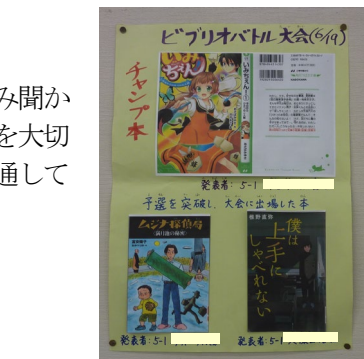
《児童の考えを活かした図書委員会の取組》

毎月のイベントを児童が考えて実施しています。休み時間を利用して、読み聞かせや読書クイズ、ビブリオバトルなどを行ってきました。また、児童の考えを大切にしながら、秋の読書月間や百人一首大会など、読書を啓発する活動を年間通して行っています。

《保護者の方々のご協力による活動》

保護者の影絵サークル「クレール」は、20年以上にわたり読書まつり等で影絵の上映を行っています。図書委員会に児童へパネルシアターの指導をしてくれたこともあります。

その他にも、保護者の読み聞かせサークル「おはなしパレット」や地域のボランティアの方による蔵書点検の支援などもあり、学校と地域が一体となって、児童の読書活動を支えています。



図書館の窓から ～ひろげよう！図書館の輪・リレー執筆～



新しい1年が始まり、子どもたちの元気な声が響く、嬉しいスタートとなりました。

図書館では貸し出しに向け、オリエンテーションを行いました。テンポよくわかりやすく伝えるために、毎年パネルシアターを使って話します。分類については、“本の住所”がイメージしやすいよう、学校の住所や地図なども使いながら説明します。分類シールの謎を理解することで、本の戻し方名人が増えると嬉しいです。

さらに、今年度は『図書の時間は国語の時間』という話もしました。子どもたちが授業の時間という認識を持ち、読書活動が実りある1年になるよう、支援していきたいと思います。

【市川市立南新浜小学校 学校司書 倉田 朝子】

信篤小学校 コロナ禍の学校図書館における読み聞かせ

【7月上旬に読み聞かせをした作品】

低学年

「たなばた」君島久子再話
「じゃくちをあげる」としんぐうすむ作
「りんごりっぱ」あべけん作
「こんにちワニ」中川ひろたか文
「ぼちぼちこうか」マイク・セイラー作

中学年

「おこだてませんように」くすのきしずのり

【図書委員が読み聞かせした作品】

「しあわせの王子」紙芝居
オスカー・ワイルド原作
「ねえ、どれがいい？」ジョン・バーニンガム作
「これはのみのびこ」谷川俊太郎作 サンリード
「すてきな三にんぐみ」トニー・アングラー作
「ひとのいのちねこ」田島征三絵
「のみのびこ」谷川俊太郎

【先生へのアンケート結果】

読み聞かせを行った本の中で、よいと感じた本

1位「リンドラのとり」（1・2年国語、言葉遊び）
2位「ライオン1頭！」

（1・2年校外学習、3年総合、4年国語）
「うさぎましろのお話」（季節行事、道徳）
3位「かけっこ」（学校行事、体育）
「アナンシと五」（季節行事、昔話）
「ホネホネたんけんたい」

（2年校外学習、3年動物調べ）

「なら梨とり」（3年総合、昔話）

昨年度行われた信篤小学校の実践を紹介します。信篤小学校では、学校司書が中心となり、「コロナ禍の学校図書館における読み聞かせ」をテーマに、1年間取り組みました。

休校明けの1学期は「楽しい読書体験を意識した読み聞かせ」、2学期は「総合的な学習の時間や体育科も意識したプログラムでの読み聞かせ」を心がけて行いました。

7月中旬、水泳学習が中止された児童に向けて、夏の楽しみを感じさせる作品を読みました。『およぐ』（なかのひろたか作）を読んだ時の、息を吸う真似や「泳ぎたかった」とつぶやく児童、最後の泳ぎ出すページで一緒にエアクロールをする児童の様子から、読み聞かせを楽しんでいることが伝わってきました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2学期以降も学校行事の縮小や体験型の学習が限られることを踏まえて、図書館でできることを考え、読み聞かせの計画を立てました。

歯科検診前には、「もうすぐ歯科検診ですが、歯医者さんをイメージしながら聞いてくださいね」と声をかけ、『歯いしゃのチュー先生』（ウィリアム・スタイグ文・絵）を読みました。また、体育科学習発表会前に、『かけっこ』（西園一也監修）の読み聞かせをすると、どの学年もイメージトレーニングするかのよう真剣に説明を聞いていました。

1・2年生に読んだ昔話『なら梨とり』は、梨栽培の学習をした3年生へ『ナシの絵本』（澤村豊・梶浦一郎編 農山文化協会）とともに読み、梨栽培の歴史と梨の効能について紹介しました。千葉市動物公園へ校外学習に行った1・2年生に、動物への理解を深めるため読んだ『ライオン1頭!』（ケイティ・コットン文）は、絶滅が危惧される野生動物を取り上げているので、SDGsを学んでいる3年生、国語科でウミガメについて学ぶ4年生にも活用できました。

市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

〒272-0015 千葉県市川市曳尾1-1-4

TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352

